



横浜国際映像祭2009事務局
〒231-0002神奈川県横浜市中区海岸通り2-8第2吉本ビル4-B
TEL : +81-(0)45-212-5661 FAX : +81-(0)45-212-5630
<http://ifamy.jp>

International Festival for Arts and Media Yokohama 2009

ヨコハマ国際映像祭 2009

プレス資料

横浜国際映像祭 2009 実行委員会

【お問合せ先】 横浜国際映像祭 2009 実行委員会事務局 (担当: 呉 (ウ))

〒231-0002 横浜市中区海岸通 2-8 第二吉本ビル 4 階 B TEL : 045-212-5661 FAX : 045-212-5630

公式HP : <http://ifamy.jp> お問合せEmail : info@ifamy.jp

■ 開催概要

名称：ヨコハマ国際映像祭 2009

テーマ：CREAM [Creativity for Arts and Media]

*映像メディアをめぐる幅広い創造性を紹介するフェスティバルとして上記テーマを掲げ、作品やプロジェクトを選択するうえでのコンセプトを次ページに別途つくりました。

会期：2009年10月31日(土)～11月29日(日)【30日間】

会場：新港ピア(メイン会場)、BankART Studio NYK、他 周辺会場も使用予定

主催：横浜国際映像祭 2009 実行委員会(2008年12月19日設立)

＜実行委員会構成員＞

横浜市、(財)横浜市芸術文化振興財団、東京芸術大学大学院映像研究科、NHK 横浜放送局、(株)テレビ神奈川、(独法)東京国立近代美術館フィルムセンター、(財)画像情報教育振興協会、(財)横浜観光コンベンションビューロー

入場料：有料

動員目標：12万人

総事業費：約2億円(本市負担額=約1億2千万、他は企業協賛・入場料収入等)

来場者層：アートファンからファミリー層まで広く一般

プログラム：

- A エキシビジョン…国内外のアート映像作品、科学などの記録映像、体験型映像作品の展示
- B スクリーニング…映画、ビデオアート、ドキュメンタリー映画などの上映
- C フォーラム…映像文化をめぐる国際シンポジウム
- D イベント…音楽、映像、アートのパフォーマンスイベント
- E プロジェクト…市民とアーティストの協働による、地域リサーチと映像作品の制作+展示
- F 公募コンペ…ノンジャンルの、あらゆる形態で表現された作品の審査と表彰

等を予定

開港150周年の2009年に「映像文化都市・横浜」の新たな取組として、現代美術、メディアアート、CG、アニメーション、映画、写真など様々な映像を対象とした国際的な映像のフェスティバル「ヨコハマ国際映像祭2009」を開催いたします。

この映像祭は、映画祭でも現代美術展でもない新しいフェスティバルを目指します。国内外より映像作家、アーティスト、クリエイター50組(予定)が参加し、映像に関わる幅広いジャンルの作品が横浜の地に一堂に集結します。今までにない映像文化のフェスティバルとして、アーティストだけではなく、市民が参加する映像を使った様々なプロジェクトをはじめ、港や海を心地よく眺めながら今後の新しい映像表現の可能性と私たちの社会との関係性について多くの方々が対話をする空間があらわれます。

■ コンセプト：DEEP IMAGES 一海としての映像

この地球上で映像とまったく無縁に住むことは難しくなりつつあり、私たちは映像によって世界とつながっていると言っても過言ではないでしょう。とりわけ、近年の技術発達によって一部の人だけではなく、多くの人にとって一般に生活する中で映像を見る、作るといった機会は急速に増えています。つまり、映像は私たちにとって社会とどう関わっていくかという見方から考えるべき技術なのです。芸術表現においても、美術、映画、身体表現、音楽などの異分野が、こうした汎用性のある映像技術の発達によって共通の視覚文化に参加している同時代の状況をみてとれます。

従来であれば異なる固有の領域にあったものが、他の領域と接触することをこの映像祭では重要視していきます。古いメディアと新しいメディアが共存や相互交渉をする関係を保つことや、異なる芸術分野が積み重ねてきた固有の表現が混じり合っていくことで、これからの未来にはどのような表現が生まれていくのでしょうか。

また、映像は人が、異文化と接触すること、空を飛ぶことや移動すること、自然を観察することなどにおいても大きな役割を担ってきました。このように、視点を移動させることで、自分が眺めるだけではない別の見方による世界のあり方に気づくために映像はまさに欠かせないものなのです。そして、それらは表現と呼ぶものばかりではなく、私たちの歴史や記憶と結びつく記録メディアとしての映像です。現実のなかに潜むまだ気づかれていない可能性を映し出すこと、そして移動することによって複数の見方を獲得することは受容器としての映像のみならず、現実働きかけをおこなうものにさえなるでしょう。つまり、物事や出来事の表層にとどまるものではなく、私たちの間に横たわり、そのなかに身体を差し入れるような深みのある、海のような存在として映像をみなすことを提案したいと考えています。

ディレクター 住友文彦 (元 東京都現代美術館 学芸員)

■ 会場について

1. メイン会場 新港ピア (横浜市中区新港 2-5)

映像はただ眺めるだけのものではありません。自然科学や文化人類学の調査の目的で記録された映像や、新たな土地へ移動したり、新たな乗り物の発明によって獲得した、新しい眺めを伝える映像もあります。こうした映像と、アートとして表現される映像を一緒に紹介します。

また、音楽やVJのライブやパフォーマンスなどのイベント、「誰もが自由に映像をつくり発信する時代」を反映した自主的なメディアが活動する拠点がおかれるなど、いつも何か新たなことが起こっている、アクティブな会場になります。

2. BankART Studio NYK (横浜市中区海岸通 3-9)

世界各国で活躍する、映像を用いる現代アーティストの作品を展示します。モニターやスクリーンに映されるものだけではなく、新しい写真表現の試みや、映像による空間インスタレーションなど、様々な形態があります。こうした展示を通じて、これからの映像コミュニケーションの時代に避けられない、「映像メディアとは何か?」「私たちにどんな影響を与えるのか?」といった根本的な疑問に関わる重要な作品を紹介します。

■ 若手支援プロジェクト

ヨコハマ国際映像祭 2009 CREAM コンペティション

CREAM コンペティションでは、様々な分野の第一線で活動する審査員を迎え、新たな映像表現について提案・発信する場となることを目的とします。近年の技術発達によって、私たちは映像に囲まれた生活をし、映像によって世界とつながっているとも言えます。映像作品を作ることは、もはや特定の人だけではなく、多くの人にとって一般的なことでもあります。美術、映画、身体表現、音楽など異なる芸術表現の領域を越えた新しい映像表現が私たちの今後の社会とどのように関わってゆくのか、その問いかけともなる作品を広く一般から募集します。

- ・ 応募作品：
 1. 分野を特定せず、多分野から映像に関する実験的、先鋭的な作品を期待。
 2. 応募作品は上映、展示の他、インターネットを使った作品、パフォーマンス、屋外プロジェクトなど形式を問わない。
 3. 応募者の年齢、性別、国籍を問わない。グループでの応募も可能。
 4. 2008年5月1日以降に完成した作品であること。
- ・ 募集期間：2009年5月1日（金）～7月31日（金）締切日：当日消印有効
- ・ 賞：受賞作品の中から選りすぐりの作品を会期中に上映もしくは展示します。
CREAM PRIZE (1作品)：賞金50万円／優秀賞(数作品)：賞金10万円
- ・ 審査：ウェブサイトにて発表します。

一次審査結果発表：2009年8月中旬（予定） 最終審査結果発表：2009年9月上旬（予定）

審査員 ※敬称略、50音順

- ・ 一次審査員：

宇川直宏（映像作家、グラフィックデザイナー、現代美術家、VJ、京都造形芸術大学教授）
千房けん輔（アーティスト、アートユニット「エキソニモ」メンバー）
土屋豊（映画監督、ビデオアクト主宰）
- ・ 最終審査員：

浅井隆（アップリンク社長・プロデューサー・webDICE編集長）
欧寧〔オウ・ニン〕（映像作家、アートディレクター、批評家）
四方幸子（NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]学芸員、東京造形大学特任教授、多摩美術大学客員教授）
マイク・スタップス（FACT [Foundation for Art and Creative Technology]ディレクター）
諏訪敦彦 審査委員長（映画監督、東京造形大学学長）
山村浩二（アニメーション作家、国際アニメーションフィルム協会日本支部理事、東京藝術大学教授）

8月下旬以降に詳細を発表！

**参加アーティスト、プロジェクト、イベント、コンペ結果 ほか
ぜひ、ご期待ください！！**